草苑保育専門学校 2025 年度 教育課程編成委員会 第 1 回 議事録

日　時：2025 年 9 月 11 日(木)15:00～17:00
場　所：草苑保育専門学校 大会議室
出席者：福元 真由美　青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授　②
森田 陽子　日本女子体育大学体育学部子ども運動学科長/日本幼児体育学会理事　①
森 文稔　社会福祉法人さきたま会薫る風・上原こども園総括責任/日本子どもと伝承遊び学会理事　③
阿江 美知代　教育課程編成責任者／草苑保育専門学校校長／草苑学園理事
竹原 有基　草苑保育専門学校 教務部長／草苑学園 総務・財務部長
浅井 忍　草苑保育専門学校 専任講師／就職支援センター長
※企業等委員種別：①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
司　会：竹原
記　録：浅井

1. 議事と議論の要旨

第一部：報告
（1）2025 年度委員紹介
（2）資料確認
（3）2024 年度第 2 回議事録確認
（4）校長より開会挨拶および環境整備報告
今年度より「教室固定制」を廃止し、大学と同様の「移動制」を導入。学生が自ら教室を確認し移動することで、自己管理能力の向上を図っている。また、常に同じメンバーで固まる弊害（人間関係の固定化）を打破し、退学率の抑制にも寄与している。

（5）保育士養成コース報告（竹原）
新設の「保育士コース」は、学力や経済的理由による 1 名の退学者を除き、概ね順調。少人数ならではの密な指導が功を奏している。学生からも、週 3 日の休日があることで、身体的・精神的負担が少ないとの意見が聞かれる。

（6）前回委員会を踏まえた取り組み（進捗報告）
①情報処理・ICT 環境の刷新

全館 Wi-Fi の開放と、OS サポート終了に伴う全 PC の入れ替え（50 台）を完了。履歴書作成や実習書類の一部 ICT 化を目指し、就職活動におけるデジタル対応力を強化していく方針の下支えができた。

②外国語コミュニケーションのレベル別導入

TGG（東京都英語村）での研修を実施。英語への苦手意識がある学生も、体験型学習により意欲が向上した。

本科の英語授業を「習熟度別」に再編。ネイティブ講師 3 名による少人数編成を行い、「話す・聞く」に特化した実践的なカリキュラムへ移行した。

③地域連携と多文化理解

阿江校長の下、学校として力を入れている領域。「オレンジリボン運動」や「防災ジュニアリーダー」に加え、地元の「目白子どもメッセ」への参画など、地域貢献活動を拡大。また、多文化共生教育の一環として、近隣のイスラム教施設（東京ジャーミイ）の見学を計画。多様な宗教・文化的背景を持つ子どもや保護者への理解を深める一歩としている。

(7) 討議

①ディプロマ・ポリシー（DP／称号授与の方針）の具現化と主体性向上

現状と課題：学生は DP の文言自体は理解しているが、日々の授業や自身の成長とどう結びついているかの実感（自己評価）が弱い。

→委員の意見

・ステップの提示：最終的なゴール（DP 達成）だけでなく、そこに至るためのスモールステップを明示し、成功体験を積ませることが重要。

・「好き」を専門性に：単なる保育の知識習得に留まらず、「自分の好きなこと（例：ギター、ゲーム、スポーツ）」を保育技術と掛け合わせることで、その学生独自の「スペシャリティ」を見つけさせる。これが自己肯定感と主体性に直結する。

・「点の学び」を「線の成長」に変える指導：学生は個々の作業を単発の課題と捉えがちであり、今やっていることが将来のどのステップに繋がるのか、その「見通し（ロードマップ）」を常に意識させるトレーニングが必要ではないか。特に、状況分析はできても課題設定が苦手な傾向があるため、自分たちの行動スタイルを立ち上げるための「課題設定」を教員と共に作るプロセスを大切にすべきでは。

・中だるみの解消：1 年生の後半（4 年生大学でいう 2 年次にあたる）に訪れる意欲低下に対し、ゼミ活動の早期プレ実施や、学年を超えた交流（縦割り活動）を導入し、刺激を与えるべきではないか。担任をシャッフルした少人数グループでの対話や、学外（ボランティア等）へ出て外の空気に触れる機会を増やすことで、学校へ来たくなる仕掛け

を 1 年の後半に集中させるのが有効であると考えられる。

②生成 AI（ChatGPT 等）の教育活用
現状と課題：急速に普及する生成 AI を、保育者養成の文脈でどう位置付けるべきかを検討した。禁止ではなく、「保育の現場でどう使いこなすか」という視点での指導が必要である。現状は、IT リテラシーの一環として教えている（学生用 PC では CoPilot の利用が可能）。
→委員の意見
・AI を禁止するのではなく、人間が作った案を AI に修正させる、あるいは AI の回答を人間がブラッシュアップする共同作業のプロセスを授業に組み込むのはどうか。
・自分が作った文章を AI に投じ、修正を繰り返す過程でこそ学びが生じる。
・AI が出力した、保育現場では使わない不自然な言葉遣いやデリケートな配慮を欠いた表現を、あえて教材として学生に提示し、なぜ不適切なのかを議論させる授業は非常に有効。
・「保護者対応を AI に任せて良いか」といった問いを通じ、保育者に求められる人間的な対応力の重要性を再認識させる機会とするのはどうか。

③防災・安全危機管理と地域貢献
　前回の討議から一歩踏み込み、被災時、学生が「守られる側」から「支える側」へ回るためのシミュレーションが提案された。
→委員の意見
・「全員 3 日間残留」を前提とした組織構築を。徒歩帰宅の困難さや道路状況を考慮すると、距離で線引きせず、基本は全員が 3 日間留まる前提で備蓄や組織体制を整えるのが現実的。
・避難生活において、学生が子どもたちの遊び相手や高齢者のケアを担うことは、避難所全体のメンタルケアにおいて極めて大きな価値を持つ。有事の際に、地域住民が迷わず避難してこられるよう（現状では草苑学園は避難場所ではないが）、平時から近隣の園児を招いた遊びのプログラムを実施し、環境を知ってもらう、顔の見える関係性を築いておくことが真の地域貢献となるのではないか。

2. 次回予定：2026 年 3 月 5 日(木)10:00～12:00
　場所：草苑保育専門学校大会議室

3. 閉会